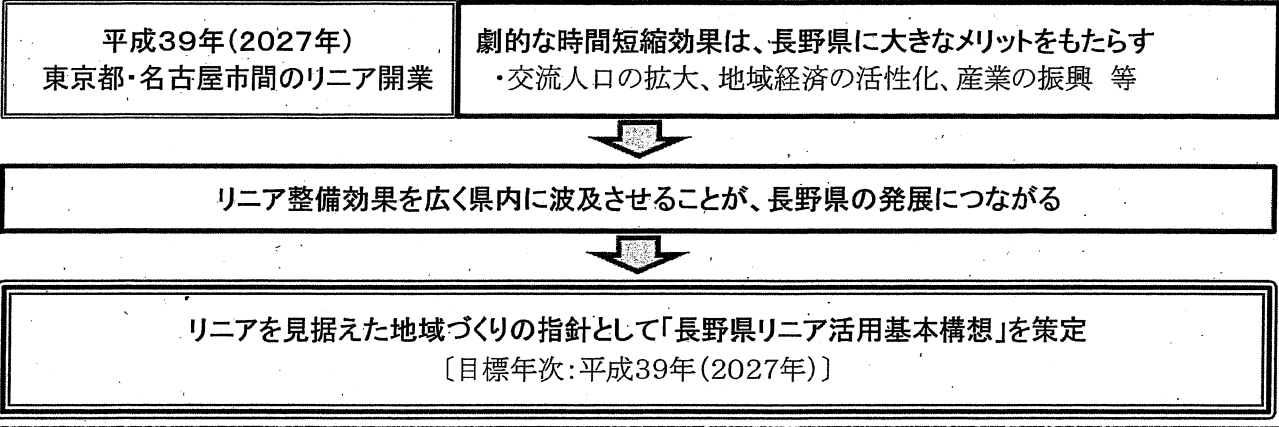


長野県リニア活用基本構想について

企画振興部リニア推進振興室

1 策定の背景・趣旨



2 基本構想の構成

- 第1章 基本構想策定の背景・趣旨
- 第2章 リニア中央新幹線計画の概略
- 第3章 リニアが長野県に与えるインパクト
- 第4章 リニアを活かした3つの交流圏構想
- 第5章 これからの取組

3 駅勢圏・地域の特性に応じた3つの交流圏構想

長野県は、リニア駅勢圏や交通網など地域の特性に応じたリニア整備効果が期待できる。

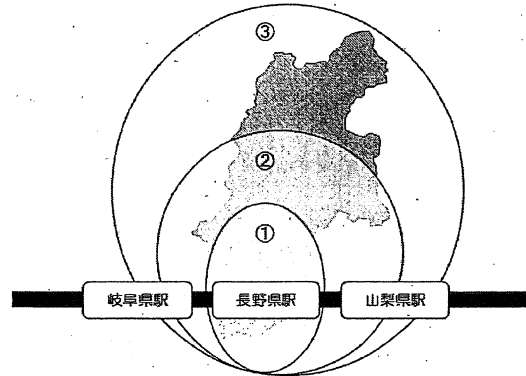
交 流 圏	想定地域	ポイント
①伊那谷交流圏	【長野県駅の駅勢圏】 上伊那・飯伊地域 (伊那谷)	>長野県駅を利用 >リニアを活かし、大都市・世界とつながる地域
②リニア3駅活用交流圏	【3駅(長野・山梨・岐阜)の駅勢圏】 諏訪・木曾・松本地域及び近隣地域 (県中央地域)	>長野県駅・山梨県駅・岐阜県駅の利用が可能 >鉄道、道路、空港による多様な移動手段を選択できる地域
③本州中央部広域交流圏	【長野県全域】	>2つの新幹線、道路網等を基軸として、本州中央部における流動の創出が可能な地域

【3つの交流圏のイメージ】



《3つの交流圏構想がめざすもの》

- (1)今ある地域資源を活かして人々を惹きつける
- (2)人口減少社会を交流人口の拡大で活性化する
- (3)日本の将来に貢献する



I 伊那谷交流圏構想

《伊那谷交流圏のめざす姿》

■ グローバルな“知”の集積と交流の拠点

リニアによる大都市圏や海外との交流拡大によるグローバルな“知”の集積地となり、交流の拠点となる。

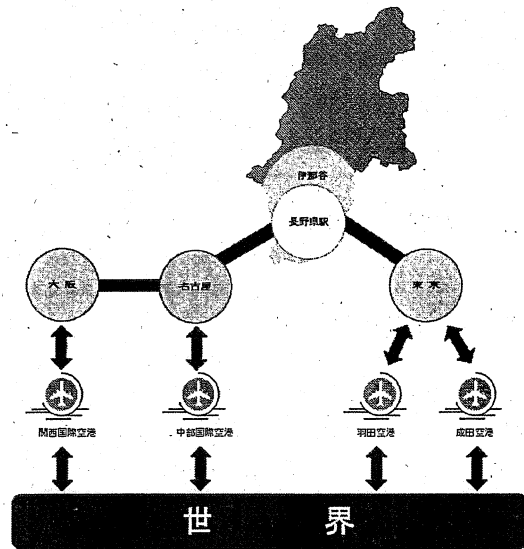
■ 豊かさを実感できる新たな暮らし方の実践の場

伊那谷への来訪者が、ゆとりや安らぎを感じることで精神的な豊かさを実感でき、都会とは異なる新たな暮らし方を実践できる場となる。

■ 美しい信州の原風景や文化・国際交流を体験できる感動のフィールド

大都市圏とのアクセスの良さを活かし、信州に広がる日本の原風景や文化・国際交流など、数々の体験の場・機会を提供する感動のフィールドとなる。

【伊那谷交流圏のイメージ】



《伊那谷交流圏の実現に向けて》

項目	方針
①リニアを活かした産業振興	<ol style="list-style-type: none"> 1 学術・研究機関が立地する“知”の集積地 2 次世代産業の創出 3 アグリビジネスの推進、森林資源の活用 4 地域産業の活性化 5 内陸部の特性を活かした企業の拠点づくり
②信州暮らしの魅力向上	<ol style="list-style-type: none"> 1 暮らしやすさのための環境整備 2 移住、二地域居住など多様なライフスタイルの実現 3 魅力ある景観の形成
③広域観光の推進	<ol style="list-style-type: none"> 1 リニア駅を拠点とした観光ルートづくり 2 国内外からの誘客促進 3 山岳高原観光地づくり 4 リゾートMICEの誘致 5 リニアからJR飯田線へ乗換える旅 6 “おもてなし”が魅力の信州の旅 7 選ばれるための情報発信
④魅力ある駅空間の創造	<ol style="list-style-type: none"> 1 長野県の南の玄関口としてふさわしい駅空間の整備
⑤良好なアクセスの確保	<ol style="list-style-type: none"> 1 高速道路の活用 2 道路ネットワークの強化 3 JR飯田線の活用

II リニア3駅活用交流圏構想

《リニア3駅活用交流圏のめざす姿》

■リニア整備による流動回路の多様化を活かした交流の拡大、地域の活性化

長野県駅に加えて山梨県駅・岐阜県駅の利用が可能であり、鉄道・道路・空港による多様な移動手段を選択できる地域となることから、リニア整備による流動回路の多様化を活かして、交流の拡大・地域の活性化を図る。

《リニア3駅活用交流圏の実現に向けて》

項目	方針
①山梨県駅・岐阜県駅との交流拡大	1 山梨県駅・岐阜県駅の活用 2 多様な交通手段によるアクセス確保 3 山梨県・岐阜県との連携
②リニアと地域の強みを組み合わせた産業振興	1 次世代産業の育成 2 観光関連産業の活性化
③多様な移動手段を活用した広域観光の推進	1 山梨県駅を活用した広域観光 2 岐阜県駅を活用した広域観光 3 リニア3駅を活用した広域観光 4 2つの新幹線の活用 5 信州まつもと空港の活用

(注)伊那谷交流圏構想に掲げた項目のうち、諏訪・木曾・松本地域においても取組可能な項目は、リニア3駅活用交流圏に含めて取り組む。

III 本州中央部広域交流圏構想

《本州中央部広域交流圏のめざす姿》

■東日本と西日本、太平洋と日本海を結ぶネットワークを活用した交流圏の構築

2つの新幹線、道路網等を基軸とした交流ネットワークを最大限活用し、本州中央部に位置する本県の優位性を発揮することで、県境を越えた大規模な流動を創出する。

《本州中央部広域交流圏の実現に向けて》

- ①高速道路網の活用(新幹線・高速道路等)
- ②道路網の整備、鉄道網の利便性向上
(JR飯田線、中央本線、篠ノ井線等)
- ③多様な移動の確保
(県境を越えたバス路線開設等)
- ④検討会議の開催
(本州中央部広域交流圏結節機能強化に関する検討会議)

【本州中央部広域交流圏のイメージ】

